

1. 「プラザ深川」

(深川市・深川市商店街振興組合連合会)

～ 多くの深川市民に愛される地域交流施設へと成長 ～

■ 市民の交流施設「プラザ深川」の誕生

深川市の中心市街地のほぼ中央に昭和12年に建築された旧拓銀店舗がある。拓銀が破綻した後、北洋銀行に店舗として引き継がれ、支店閉鎖後は、深川市が所有、管理してきた。まさに商店街の中心部にあることから、商店街連合会が市に対して、その利活用について要望し、5年前から市民と商店街の交流施設として「プラザ深川」が生まれ変わる事となった。

■ 多くの市民が利用するプラザに成長

このプラザを実際に運営しているのは、市から管理運営を受託した深川市商店街振興組合連合会。プラザの機能は、1階がバス待合所と市民が自由に使えるフリースペース。2階が会議室で、3階が貸し事務所と他の施設と比べてみても目新しいところはない。

ところが、昨年度の利用実績をみるとあまりの数の多さに驚く。1階フリースペースの利用件数は催事等で60件、実に8万人が利用している。

深川市人口のおよそ4倍弱に匹敵する人数である。この秘訣は、多分に、魅力あるイベントが多く、住民が集まりやすい仕組みにある。



深川東高即売会

例えば、市民主催のイベントでは、毎週木曜日に農産物の即売会「ぼっかぼかであい市」が開催され、開始前には「高齢者サロン」による健康体

操やビンゴ大会なども催される。また、深川東高で収穫した農産物等の即売会をはじめ、チャリティバザー、市民によるミニコンサートや展示会などメニューは盛りだくさん。



「ぼっかぼかであい市」の健康体操

これらに加えて商店街では、小学校授業の一環として実施している商店街探訪をはじめ商店街に隠されたキーワードを探し歩く「キナンセのいたずら」や、チケットを買ってお店をめぐる催し「ふかがわ「街ぶら」のイベント拠点となっており、人が集まり、自然と商店街を回遊する仕組みが出来上がっている。

■ 今後の課題

こうした取組は、商店街へも良い影響を与えている。空き店舗への出店が、毎年1件程度だったのが、今年はすでに3件を数えるなど情報の発信拠点として「プラザ深川」を活用する事による効果が着実に始まってきているが、空き店舗問題の抜本的な解決には至っていない。国道12号線に位置する道の駅「ライスランドふかがわ」に来た多くのお客さんを商店街にも環流させるため、商店街は、平成27年度で2回目となる、商店街謎解きゲーム「キナンセのいたずら」を実施している。今後は市外からのお客さん・地域住民・学生・各種団体・商店街など人々の交流の場としての利用を考えていきたい。

照会先
(運営主体等)

■ 深川市商店街振興組合連合会
深川市4条9番40号プラザ深川内
TEL 0164-23-4595